Allied Health Sciences
北里大学
医療衛生学部
ニュース
Vol.23
2018年11月1日 発行

北里大学医療衛生学部 半期の主なニュースと魅力を満載!!

誰もが学びやすい環境を
ー修学支援のためのシステム作りー

筑波技術大学副学長の石原保志氏

メガネが文字を識別し、音読してくれる「OTON GLASS」を試用中（視覚障害学生支援）

医療衛生学部修学支援委員長
リハビリテーション学科
言語聴覚療法学専攻
教授
石坂郁代

2016年に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行され、大学等の高等教育機関においても、障害のある学生に対する修学支援が求められるようになりました。この時流を受けて、医療衛生学部では2018年5月の教授会で「修学支援委員会」の設置が承認され、私が委員長を拝命いたしました。教育委員会や学生指導委員会と連携しながら、学生さんの支援について対応して参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、修学支援委員会の活動の第一歩は、2018年度の北里大学学長助成金をいただいての教職員の理解啓発のための講習会を共催することでした。会は、9月13日（木）18時よりA3号館33番教室において、「障害学生への合理的配慮と聴覚障害学生支援における情報保障」というテーマで行われました。講師にお招きしたのは筑波技術大学副学長の石原保志氏で、お忙しい中おいでいただき、大変分かりやすいお話を伺うことができました。

印象に残ったのは、「どんな場合でも一番大切なのは建設的対話」だということでした。支援を要請する側の学生さんも支援をする側の大学も、お互いに要望と限界を出し合いながら合意できるところを見つけていく丁寧なプロセスが必要だということでした。Reasonable accommodationは、「合理的配慮」と訳されますが、「可能な範囲での支援」と解釈することができるそうです。希望を抱いて本学部に入学してくださった学生さんが、快適な環境で勉学に励むことができるよう微力ながらお手伝いしたいと思っております。

バイオサイエンスフォーラム・微生物アカデミー研究集会

本学部で生命科学研究に関わっている大学院生が主体となって運営したバイオサイエンスフォーラム&微生物アカデミー研究集会は盛況のうちに終了しました

基礎医学部門生理学
教授
石　橋　　仁

8月8日（水）と9日（木）の二日間、相模原キャンパスのIPE棟で、第31回北里大学バイオサイエンスフォーラムと第21回北里微生物アカデミー研究集会が合同で開催されました。バイオサイエンスフォーラムは、1988年に「遺伝子とその周辺研究会」として発足後、2008年度の第21回集会で、生命科学全般に関する研究発表と討議を行う目的で、現在の名称に変更されました。微生物アカデミー研究集会は、感染症と微生物に関する研究発表・学術交流を行うものです。このフォーラムと研究集会は、北里大学内の若手研究者や大学院生に研究発表の機会を提供し、情報交換と共同研究の推進を図るため、オール北里の研究会として毎年8月に合同で開催されており、今年度は医療衛生学部が企画・運営を担当しました。

初日の特別講演では、慶應義塾大学医学部生理学教室の岡野栄之教授が、「iPS細胞と遺伝子改変霊長類を用いた神経疾患の研究」と題する最先端の研究成果をお話され、参加者は前のめりで聞き入っていました。また、台風13号の影響による交通機関の乱れが心配されたため、2日目に予定した発表の一部を1日目に繰り上げたり、2日目の開始時刻を遅くするなどの対応を行いながら、バイオサイエンスフォーラムでは88演題、微生物アカデミー研究集会では4演題がそれぞれ発表されました。

チーム医療演習室での口頭発表

今年のバイオサイエンスフォーラム&微生物アカデミー研究集会の特徴は、大学院生が主体となって会場運営を行ったことにあります。予算の確保やプログラム作成までは、医療衛生学部の遺伝子組換え実験安全委員会、バイオセイフティ委員会と事務の方々が中心となって行いましたが、研究会の当日は大学院生が中心となって会場運営を行いました。台風の影響による急なプログラム変更も、日頃鍛えているチーム力を発揮して乗り切ることができました。意見交換会で飲み物が冷えていなかったという小さなトラブルもありましたが、研究発表会自体は質疑応答で積極的なやりとりがあるなど、今後の研究の発展が大いに期待される内容でした。

IPEホールでの特別講演

研究室

謎解き冒険研究室！

「環境衛生学」

健康科学科環境衛生学
教授
清　和成

研究室HP：https://envhyglab-kitasato-u.localinfo.jp/

「北里大学には、『環境』を扱っている研究室があるらしい！」、「ぜひ入学して『環境』について学びたい！　研究したい!!」。こんな声が世界中から聞こえることを夢みながら、私たちは、日々活動をしています。健康的な生活に衛生的な環境は不可欠です。〝0次予防（環境の保全・改善）〟を担っている教室と自負しています。その内容は、微生物の力を借りて有害な物質を含む産業排水を浄化してみたり、浄化するだけでなく資源やエネルギーも回収してみたり、植物の力も借りてみたり、遺伝子検査で河川などの環境水から病原微生物や衛生動物を検出してみたり、薬剤耐性菌にも効果のある新たな消毒技術を開発してみたり、とさまざまです。

海外フィールド調査も特色の一つで、現在は、山梨大学、トリブヴァン大学（ネパール）の皆さんと、カトマンズ盆地の地下水、生活用水中の病原微生物汚染調査を実施しています（写真）。カトマンズの衛生状態は劣悪で、定宿の水道水からは大腸菌群（時に大腸菌）がうじゃうじゃ検出されます。

今年からは、医学部寄生虫学教室、ガーナ大学野口記念医学研究所の皆さんと、1ℓの水を汲むだけでその水域に棲息している生物を網羅的に検出できる手法（環境DNA解析）を使って、ガーナにおける住血吸虫の媒介動物の存否予測に取り組み始めました。こんな雑多な話題に興味のある方、ぜひ一度覗きにきてください。

大学院

第52回年会優秀発表賞（クリタ賞）受賞

受賞報告×環境衛生学×進路

大学院
医療系研究科 環境医科学群
環境衛生学特論
修士課程２年
大津留　知樹

第52回日本水環境学会において、年会優秀発表賞（クリタ賞）を受賞いたしましたので謹んでご報告いたします。

私はプレゼンテーションが元来得意でしたので、クリタ賞受賞という形で実績を残せたことは、更なる自信の向上に繋がりました。

私が所属している環境衛生学研究室では、水環境に焦点を当て、循環型社会の形成を目指した技術の開発について取り組んでいます。進学前に当研究室のことを聞いたときは「医療系の北里で環境衛生学？」と疑問に思ったことを記憶しています。しかし、水は生物にとって欠かせないものであり、水環境が人の健康に直結することを知って以来、水処理を学び、技術を通して地球環境に貢献したいと考え進学するに至った次第です。

来年度からは研究を離れ、水エンジニアリング企業で働く予定です。水エンジニアリングとは、上水・下水をはじめとした水インフラに関わる業界で、医療系の北里とは縁遠い関係にあるように思えます。しかし、様々な経歴を持った先生方がいる〝大学〟という環境において、自分の専門分野だけでなく幅広い分野に興味を持ち〝アンテナ〟を張ることで、明確な進路を見出すことができたと思います。北里生でありながらもこのような進路があるということと、様々な分野に〝アンテナ〟を張る必要性があることをお伝えできれば幸いです。

クリタ賞受賞後、ポスターの前で先生と

PPA

PPA小国町訪問

PPA地方会に際して小国町鍋ケ滝を訪問

医療衛生学部
学部長　北里　英郎

10月20日に、翌21日に博多で開催されるPPA地方会の前段として、PPAご有志の皆様と熊本県阿蘇郡小国町にある北里柴三郎記念館を管理している学び舎の里木魂館で合流いたしました。当日は、素晴らしい快晴に恵まれ、柴三郎が愛した小国富士「涌蓋山」を貴賓館2階より展望し、北里文庫で特別に閲覧できた書物に感銘していました。

北里柴三郎胸像と涌蓋山

そののち、女優の松嶋菜々子さんの生茶のCMで一躍有名になり、遊歩道が完備された、鍋ケ滝にご一緒いたしました。鍋ケ滝は、9万年前、阿蘇のカルデラを作ったといわれる大噴火で出来たといわれ、幅20m、高さ10m、幅広く流れ落ちる水が、緑に映え、マイナスイオンの中、とても神秘的です。また、非常に珍しいことに、滝の裏側に回れることも、独特の雰囲気を醸し出し、人気となっています。皆様、是非、一度、訪れてはいかがですか。

神秘的な鍋ケ滝

国際交流

パスツール訪問

パスツール研究所に贈られた七宝焼き

パスツールから贈られた署名入りのポートレート

皆様、パスツール生誕100周年を期して、1922年11月27日に北里研究所から贈られた七宝焼きの壺があるのをご存知でしょうか？

今回、9月に小林理事長、伊藤学長とともに、将来的な共同研究の発展、国際交流協定の締結を目的としてフランス・パリのパスツール研究所を訪問しましたのでご紹介いたします。

学祖柴三郎は、コッホ研究所での留学を終え、母国日本への帰国の際に、日本の医学者として初めてパスツールを訪問いたしました。当時、近代微生物の礎を築いたコッホとパスツールでしたが、お互いに愛国心が極めて強く、普仏戦争などの影響もあり学会でも言葉を交わさない関係であったとされています。しかしながら、パスツールは、コッホの下で柴三郎が行った破傷風菌発見、血清療法などの業績を称え、自分のポートレートに「北里博士へ、素晴らしい研究に敬意と祝福を込めて、ルイ・パスツール」とサインして手渡しました。パスツールの信念であった「科学には国境はないが、科学者には故郷がある」が良く現れた素晴らしい言葉であると思います。

柴三郎は、生涯、「近代細菌学の開祖」であるコッホとパスツールを尊敬し、この一対の七宝焼の壺をパスツール研究所に贈りました。今回の訪問で、パスツール記念館の霊廊にあるパスツールの奥様のお墓に飾られている、フランス語で「日本より微生物学の開祖、人道の貢献者ルイ・パスツールに感謝する」と刻まれた七宝焼きを直に見ることができ、両研究所の長い繋がりに改めて感銘いたしました。（北里英郎）

パスツール夫人のお墓に安置されている北里研究所から贈られた1対の七宝焼

新任教員紹介

医療工学科診療放射線技術科学専攻
教授　下野　哲範

出身：大阪府
略歴：金沢大学大学院医学系研究科博士前期課程修了。同大学大学院医学系研究科博士後期課程修了、博士（保健学）
趣味：ダイビング、バドミントン、北アルプス登山

診療放射線技術科学専攻への着任にあたり

2018年9月1日より診療放射線技術科学専攻の教授を拝命いたしました。

金沢大学で学位を取得し、診療放射線技師として、大阪の公的病院で臨床・研究などの経験を積んでまいりました。臨床では、がん治療に関心を抱き、放射線治療に関わってきました。その後、前職である福岡市で5年間、大学教員を務めてまいりました。関東に住むのは初めてで、観光名所を色々と教えていただいたので、ぜひ行ってみたいと思います。

これまでの研究では、放射線治療における中性子被ばくの低減化に関する研究を行ってきました。放射線治療技術学系の講義を担当することになりましたので、臨床で学んだ経験を生かしていきたいと考えています。

最先端の研究に楽しんで取り組むことによって人間力の向上を目指し、社会で活躍できる人材の育成に努めたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

医療工学科臨床工学専攻
講師　小川　恵美悠

出身：東京都
略歴：慶應義塾大学大学院理工学系研究科修士課程修了。フランスEcole Centrale de Lyon修了，Diplôme d'ingénieur取得。慶應義塾大学大学院理工学研究科後期博士課程修了、博士（工学）
趣味：チェロ

医療電子工学研究室講師着任にあたり

2018年7月1日より臨床工学専攻の講師を拝命いたしました。

私の専門分野はレーザ治療・診断学の基礎研究、システム医用工学です。これまで理工学部における医工連携・産学連携により、光増感反応を応用した新しい不整脈アブレーション治療の開発、レーザーを熱源とした短時間加温型血管形成術の開発、悪性脳腫瘍に対する光線力学的療法の光照射支援ミラーの開発などを行ってまいりました。レーザーなど光学的手法による治療・診断学における基礎研究と、基礎的な実測データに基づく数理モデルへの拡張（システム医用工学）を得意としております。学生が工学的な基礎科目の知識をしっかり身につけ、医療に役立てられる教育を目指し、医工連携・産学連携により新たな医療技術を通して社会に貢献してまいりたいと思います。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

医療検査学科臨床細胞学
助教　阿部　直也

出身：神奈川県
略歴：北里大学医療衛生学部10期卒業、北里大学大学院修士課程修了、日本赤十字社医療センターにて臨床検査業務に携わりつつ東京医科歯科大学大学院博士課程修了。
趣味：写真、沖縄旅行。

臨床細胞学研究室助教の着任にあたり

2018年10月1日より医療検査学科臨床細胞学研究室の助教を拝命いたしました。

北里大学を卒業してから約10年、私のことを覚えていてくださった先生方や事務の方々がおられる環境の中で、このように一緒に教育職に携わることができることを大変うれしく思います。前職では、日本赤十字社医療センターで臨床検査技師として検査業務に従事しており、その間、病理組織細胞検査、生化学免疫検査、輸血検査など幅広く検査の現場を経験してまいりました。一方で、細胞診に携わる人間が必ず直面する、すべての細胞を人間の目で良悪を区別することの難しさを解消するべく、＋αによる診断精度向上の研究に取り組んでおりました。

臨床での経験から学んだことを活かし、広い視野を持って教育、研究に貢献できるよう努めてまいります。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

●キャンパストピック
ホーム カミング デイ

基礎医学部門
生理学
准教授　秋田　久直

医療衛生学部同窓会主催 Home Coming Day 開催報告

8月25日に医療衛生学部同窓会主催で、旧衛生学部卒業生を対象にHome Coming Dayを開催し、106名の参加がありました。見学会に先立ち、北里英郎学部長より学部・大学の近況についてご報告頂きました。続いて、秋田が相模原キャンパスの今昔を画像で紹介した後、少人数のグループに分かれてA1号館（旧衛生学部校舎）を中心に、一般教育部、臨床研究棟、新北里大学病院ロビーを見学しました。特にA1号館3階の実習室は、多くの参加者より室内に入れてよかったと感想を頂きました。思い出の場所で写真を撮る方も多く見受けられました。その後、IPE棟1階の食堂で、76名の参加を得て懇親会を開催し、昔話に花を咲かせました。この場をお借りして、ご協力いただいた医療衛生学部並びに大学病院にお礼申し上げます。

2019年秋には、医療衛生学部卒業生を対象としたHome Coming Dayを開催する予定です。その際には、A3号館の研究室や実習室を見学できるよう、教員の皆様にもご協力いただければ幸いです。

見学会に先立ち、北里学部長よりご挨拶いただきました。

IPE棟食堂での懇親会の集合写真

●学生生活紹介
懇和会

リハビリテーション学科
理学療法学専攻
講師　上出　直人

筋トレクラブ

理学療法学専攻の上出です。今回は、私の懇和会『筋トレクラブ』の紹介を！というご指名を受けましたので、恥ずかしながらご紹介させていただきます。

さて突然ですが、「皆様の筋肉は最近喜んでいますか？」筋肉は大切です。筋肉があればプロポーションも良くなり、代謝も上がって太りにくくなります。

ということで、不定期開催ではありますが、筋肉好きな学生達と一緒に、A2号館6階のトレーニング室にて筋力トレーニングに励んでおります。筋肉も使ってあげることで喜びます！とはいえ筋肉を喜ばせるためには、真剣に筋力トレーニングをしなければいけません。某トレーニングジム（〇〇ザップ）の如く、「結果にコミット」を合言葉に、トレーニング前には身体の筋肉量と脂肪量を体組成計で計測し、さらに最大筋力を計測した上で、最大筋力の60%以上の負荷をかけたマシントレーニングを実施しています。おかげさまで今期前半では、私自身は筋肉量アップと脂肪量ダウンに成功しました。

さて、皆様の筋肉も喜ばせてみませんか？？

●お薦めしたい
この1冊この1枚この1本

リハビリテーション学科
作業療法学専攻
准教授　渡邉　誠

著書名：かないくん
著　者：谷川俊太郎（作）、松本大洋（絵）
出版社：東京糸井重里事務所

本の世界に捕まる／本の世界に浸る

人に本を薦める、というのはある種の気恥ずかしさを伴うものです。その本を読んだ時の私の心情、そして紹介する今の私の心情がそこに見え隠れするからかもしれません。今回、お薦めする1冊は絵本です。絵本に関心がある方は北青山にある「クレヨンハウス」がさらにお薦め。絵本、児童書、児童文学研究などお子さんと共に楽しめる素敵な場所です（もちろん1人でもOK）。話を戻して、『かないくん』の紹介。詩人である谷川俊太郎と漫画家の松本大洋によるこの絵本は、“きょう、となりのかないくんがいない”から始まるストーリー。主題は生と死の連なり。谷川俊太郎の世界がいきなり始まります。あまりにも短いストーリーなので、紹介はこれが限界。この絵本を手に取りページをめくると、今度は松本大洋の絵の世界に引き摺り込まれていきます。死を語りながらもそこに繋がっていく「生」があることを実感させてくれる絵本です。最後の展開に自分自身の心が本の世界に捕らえられていることが分かります。文と絵からなる本の世界にこの秋、浸ってみるのはいかがでしょうか。

●わたしが選ぶ
この店この一品

医療検査学科血液学
講師　佐藤　隆司

店名：麺屋 蓮花（れんか）
相模原市南区西大沼1-1-12
品名：塩とんこつラーメン

美味しい塩とんこつラーメンが食べたい！

人気店なのでご存じの方は多いかと思いますが、古淵駅から少し離れたドン・キホーテの近くにある「麺屋 蓮花」をご紹介します。

蓮花のラーメンはくどくなく食べやすい「塩とんこつラーメン」。白濁したスープは豚骨ベースの塩味で、豚骨の臭みは全くなく旨味を感じ、麺は細麺です。チャーシューも口に入れたらトロけるぐらい柔らかく味が染み込んでいて絶品。さらに海苔・メンマ・ネギが入り、全てのバランスがとれていて、最高に美味しいです。ちなみに、私はネギが苦手なので「ネギ抜き」で注文しているため写真にはネギがなく、トッピングで半熟の味付玉子を追加しています。

さらに蓮花の店長さん・スタッフさんは丁寧な接客をされ、笑顔で声をかけてくれ優しさを感じます。とても雰囲気がよく、また行きたくなるお店です。私は蓮花の虜になり、オープンした2010年から8年間通い続けています。相模原はラーメン激戦区、その中でもぜひ訪れてほしい名店です。

味玉塩とんこつラーメン

キャンパス あるある川柳 大募集

by AHS編集委員会

詠(よ)もうぜ、北里川柳

「川柳」は俳句と違って、感じたことを五・七・五の十七音にのせるだけ。季語などの制約は一切ありません。日常の何気ない出来事や大学でのリアル生活をテーマに、あなたのセンスで一句詠んでみませんか？

優秀賞者には北里オリジナルグッズを差し上げます。優秀作品は、次号AHSニュースに掲載させていただきます！

【応募方法】（下記いずれかの方法でご応募ください）

方法①：医療衛生学部事務室内川柳応募箱

方法②：ahs-news@kitasato-u.ac.jp

（※応募時のメールタイトルは**「キャンパス川柳」**として下さい）

【応募〆切】

2019年1月11日（金）

【応募条件】

- 在学生（学部不問、大学院含）・卒業生・教職員に限ります。
- 応募の際には、①作品　②氏名　③職業（または、学部・学科・学年・卒業年など）④匿名希望の有無（当選時はイニシャル掲載となります）を必ず記載して下さい。

※応募作品は自作で未発表のものに限ります。既に発表されている作品については、選考対象外とします。

※当選者には、メールにてご連絡致します。

例　フル単位　僕にとっては　ノーベル賞（Y・I）

例　もみじ痕(あと)　終わりを告げる　夏の恋（E・I）

例　インスタは　いじっていいけど　Fig.はダメ（F・K）

伊藤先生のお国自慢!!
●愛知県編

医療工学科診療放射線技術科学専攻
助教
伊藤　喜弘

「本丸御殿」と「名古屋城」の豪華共演だがね

愛知のシンボルと言えば、全国屈指の巨大天守閣と金シャチで有名な「名古屋城」。そして、昭和20年の名古屋大空襲で天守閣とともに全焼した「本丸御殿」が総工費150億円と10年に及ぶ歳月をかけ、大復元されたので帰省がてら行ってまいりました。本丸御殿は尾張藩主の住居かつ藩の政庁として慶長20年に建てられた書院造を復元したもので、中に足を踏み入れると木曽檜の良い香に包まれ、“狩野派”の絵師達の手によって、400年前の色彩が忠実に再現された金箔の屏風や襖が…ま、まばゆい!!　また、ガラス越しには、空襲で難を逃れた約400年前に描かれた国重要文化財のふすま絵「竹林豹虎図」を見ることもでき、まさに豪華絢爛という言葉がピッタリ!!　さすが名古屋人が誇る“The名古屋城”の御殿だけあります。（笑）

残念ながら耐震性の問題で天守閣内には入れませんでしたが、城外には昔ながらの街並みを現代風にアレンジした「金シャチ横丁」があり、定番・老舗の“なごやめし”を気軽に味わえるので、ぜひとも名古屋の美味と共に歴史ロマンを堪能しに愛知へ来てちょうだゃぁね。

編集後記

皆様のお陰でAHS23号が完成いたしました。今日は10月の末日ですが今年も残すところあと2か月となりました。本年を振り返るとまず思い出されるのが異常気象でしょうか。バイオサイエンスフォーラムも台風の影響を受けたようでしたが、私も今年は逆走台風、関西直撃台風等、出張の帰りに飛行機が3回欠航になりました。さて本号も環境DNA解析、ユニークな懇話会、塩とんこつラーメンをはじめ、素晴らしい内容で盛り沢山です。最後にパスツールの信念「科学には国境はないが、——」がとても感動的で、新しい仲間も増え、学科・専攻に国境のない我が学部は、益々盛り上がること間違いなしです。

編集委員会

委員長　石川　均
委員　深瀬裕子
黒崎祥史
太田悦朗
清水　忍
川口敬之
藤村芙佐子
川島　麗
阿部祥子
野崎誉也
井上佳子

古紙配合率70%以上